

議題	第16回運営推進会議
日時	2026年2月19日(木) 13:30~14:15
場所	デイサービス山風木
出席者	(順不同敬称略) 三島包括支援センター K様 デイサービス山風木利用者様ご家族 A、B、C、D、E デイサービス山風木統括 W デイサービス山風木主管 U (議事録作成者) W (議事進行者)W
会議の詳細	
<h2>運営推進会議 議事録(山風木・認知症対応型通所介護)</h2>	
<h3>1. 会議概要</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議名:地域密着型通所介護(認知症対応型)運営推進会議 ・ 日時:2026年2月19日(木)13:34~(約72分) ・ 場所:デイサービス山風木(加屋町) ・ 司会/説明:統括 W ・ 記録:デイサービス職員(統括・担当職員) ・ 出席者: <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族:5名(利用者家族) ○ 地域包括支援センター:1名(担当:K様) ○ 事業所職員:2名(統括、担当職員) ・ 備考:議事録作成のため音声記録を行う旨を会議冒頭で説明し、了承を得た。 	
<h3>2. 会議の目的(確認)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域密着型サービスとして、運営状況の報告と、家族・関係機関との意見交換を行い、サービスの質の向上につなげる。 ・ 半年に1回(概ね2月・8月)の頻度で開催し、市へ議事録を提出・公表する 	

運用であることを説明。

3. 事業所の概要・運営状況(事業所報告)

(1)事業所概要

- サービス種別: **認知症対応型通所介護**
- 指定: 三島市の指定権限のもと運営
- 定員: **12名**
- 法人として、デイサービス複数拠点+居宅介護支援事業所を運営している旨を説明。

(2)利用状況・利用者像

- 利用回数: 週1回~週3・4回など利用頻度はさまざま。
- 介護度: **要介護1が多い傾向**。ただし「介護度が軽い=困りごとが少ない」ではなく、**認知症の困りごと(BPSD等)が顕在化し始める時期**で難しさがあることを共有。

(3)職員体制

- 山風木: 職員約10名規模で運営。
- 近隣拠点と距離が近く、職員が相互に行き来し、**応援体制**を取りながら運営している。
- 介護職の国家資格(介護福祉士)保有率: **約9割**。経験年数の長い職員が増え、組織としての厚みが出ている旨を報告。

(4)情報発信・ICT活用

- 毎月「かわら版(おたより)」を発行し、取り組みや認知症ケアの小ネタ等を発信。
- ブログ等で活動を紹介(個人情報配慮のうえ)。
- アナログの良さも大切にしつつ、ICTで効率化し、**本来サービスに注力する方針**。

4. 活動報告(写真を用いた振り返り)

※資料には個人情報配慮のため写真なし。会場投影で写真紹介。

- 散歩(近隣の緑地、公園、地域の商店等／気分転換・交流の機会)
- 季節行事(保育園児との交流、餅つき・鏡餅づくり、節句・正月行事 等)
- 生活活動(ぬか漬けづくり、調理、ピザパーティー、庭掃除、ゴミ拾い等「役割」づくり)
- 趣味活動(生け花、ピアノ、卓球、かるた等)
- 防災訓練(避難場所までのルート確認、歩行可能な利用者と分けて実施)
- 交流面:利用者同士の関係づくり(「一緒に車の方」「散歩の相棒」など)が自然に生まれている様子を共有。

5. 認知症に関するミニレクチャー(職員より)

- 最近の報道等でも「新しい認知症観(共生社会)」が取り上げられていることに触れ、本人も家族も住み慣れた地域で暮らし続ける考え方を共有。
- BPSD(困った行動)について、**本人の困りごとの背景(環境・性格・生活史・不安)**を考えることが大切であることを説明。
- 参考資料として「認知症の9大法則」や関わり方のポイントを紹介:
 - 正そうとしすぎない／言い争わない
 - 感情に同調・共感する
 - 事実でなくても“納得”を優先(嘘も方便)
 - 周囲・地域・専門職の協力を得る
 - 先回りしすぎない「一手だけ先手」
 - 過去・こだわりの理解
 - 介護者の感情は伝播する(距離を置く・休む)
 - できるところに目を向ける 等

6. 意見交換(家族の近況・困りごと共有)

※個人情報配慮のため、発言者は「家族 A～E」として整理。

(1)通所・ショートステイの理解が難しく混乱する(A)

- デイに通っている事自体を忘れやすく、曜日理解も難しい。
- 「ここは自分の家じゃない」等の発言が出ることがある。
- デイとショートステイ(泊まり)の区別がつかず、行く前に不安が高まる。
- 写真アルバム等を見せて説明しているが、混乱が残る様子。
- 施設に行けば大きな問題行動は少ないが、「行きたくない」の感情が残る。

(2)物盗られ妄想・「泥棒が入った」等の訴え(B)

- 物が盗まれる→「盗まれた」「警察に電話した」等の訴えが増加。
- 正論で否定すると悪化しやすく、現在は「そうなんだね」と受け止める対応に変更。
- 一人暮らしのため、見守り目的で**室内カメラ**を設置。
 - 侵入の不安への安心材料になる一方、本人の納得は得られにくい。
- ヘルパー(定期巡回等)を活用し、服薬・食事準備・血圧測定などで在宅生活を維持。

(3)意思疎通の難しさ・失語傾向、排泄の負担(C)

- 本人から自発的な会話がほぼなく、反応が乏しい。
- 排泄の失敗(夜間含む)やりハパンの交換、寝具汚染への対応が大きな負担。
- 水分摂取が多く、夜間の失禁が増える。
- 暖房を切る／コンセントを抜く等があり、体調管理上の不安。
- 外に出てしまう(敷地内外の徘徊)心配があり、鍵やチェーン等で工夫しているが限界もある。
- 相談相手が限られ、短時間の外出では十分な息抜きになりにくい。

(4)聴力低下・伝わらないストレス(D)

- 大声で話しても伝わらない、誤解されることがあり介護者側が強いストレス。
- 補聴器の検討も話題に上がるが、管理・紛失等の難しさもあるのではないかという意見。

(5)家族同士の共感・情報共有の意義(包括支援センター)

- 家族が抱える困りごとは家庭内で抱え込みやすく、外に出しづらい。
- この会議のような場で気持ちや経験を共有できることが、家族支援として有

用である旨のコメント。

7. 事業所・関係機関としての整理(助言・対応方針)

- 困りごとは「答えが一つではない」こと、時期(フェーズ)で変化することを確認。
- 家族が抱え込みすぎないように、ケアマネジャー・包括・サービス事業所と情報共有しながら支える方針。
- 本日の共有内容(例:通所前の不安、妄想への対応、排泄・徘徊、見守り機器、定期巡回の活用等)を、必要に応じて関係職種と連携して検討していく。

8. 決定事項・今後の対応(まとめ)

- 家族の困りごとの共有を継続し、会議を“相談・情報交換の場”として活用する。
- 必要に応じて、個別ケースはケアマネジャー等と連携し、支援方法(サービス導入・調整、見守り手段、環境調整等)を検討する。
- 次回も活動報告(写真紹介含む)と、家族の困りごとの共有を中心に実施する。

9. 次回開催予定

- 2026年8月頃に開催予定(詳細は後日案内)。